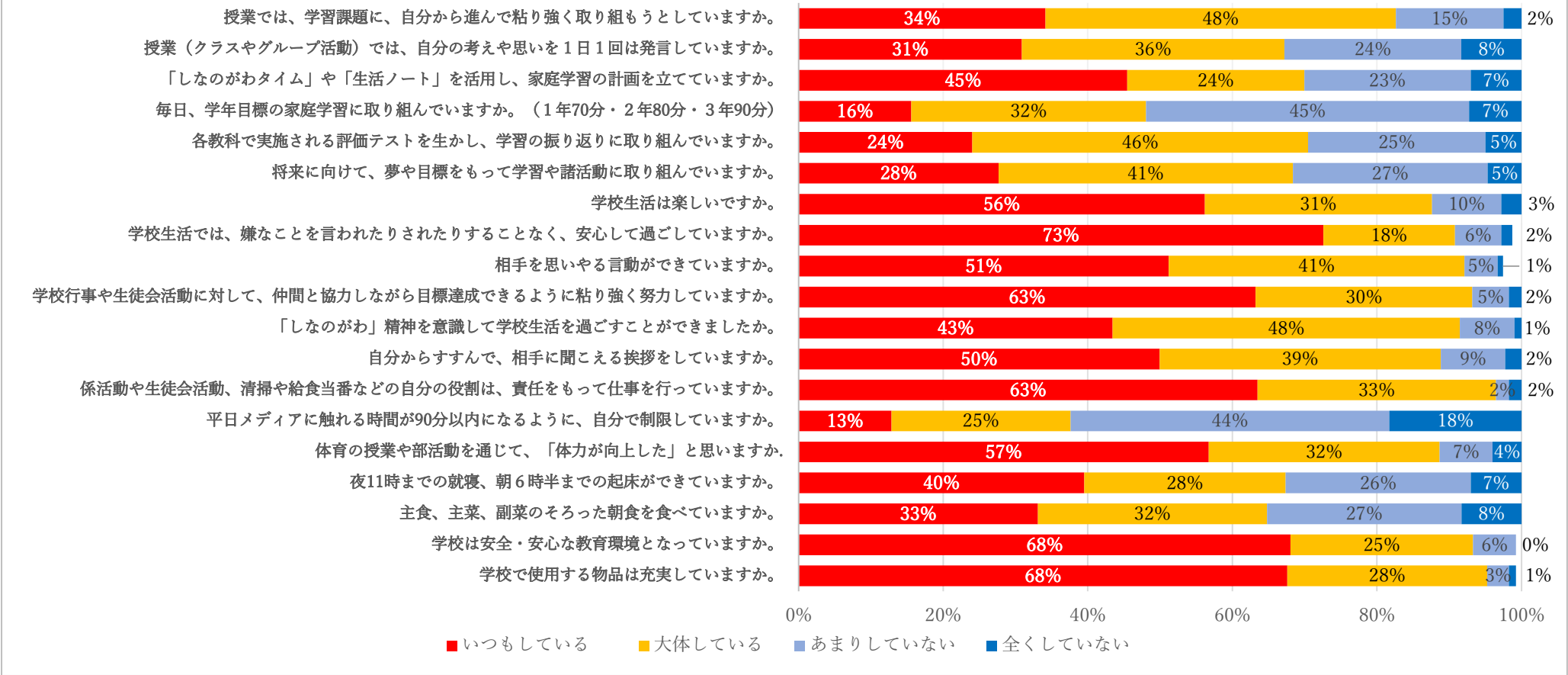
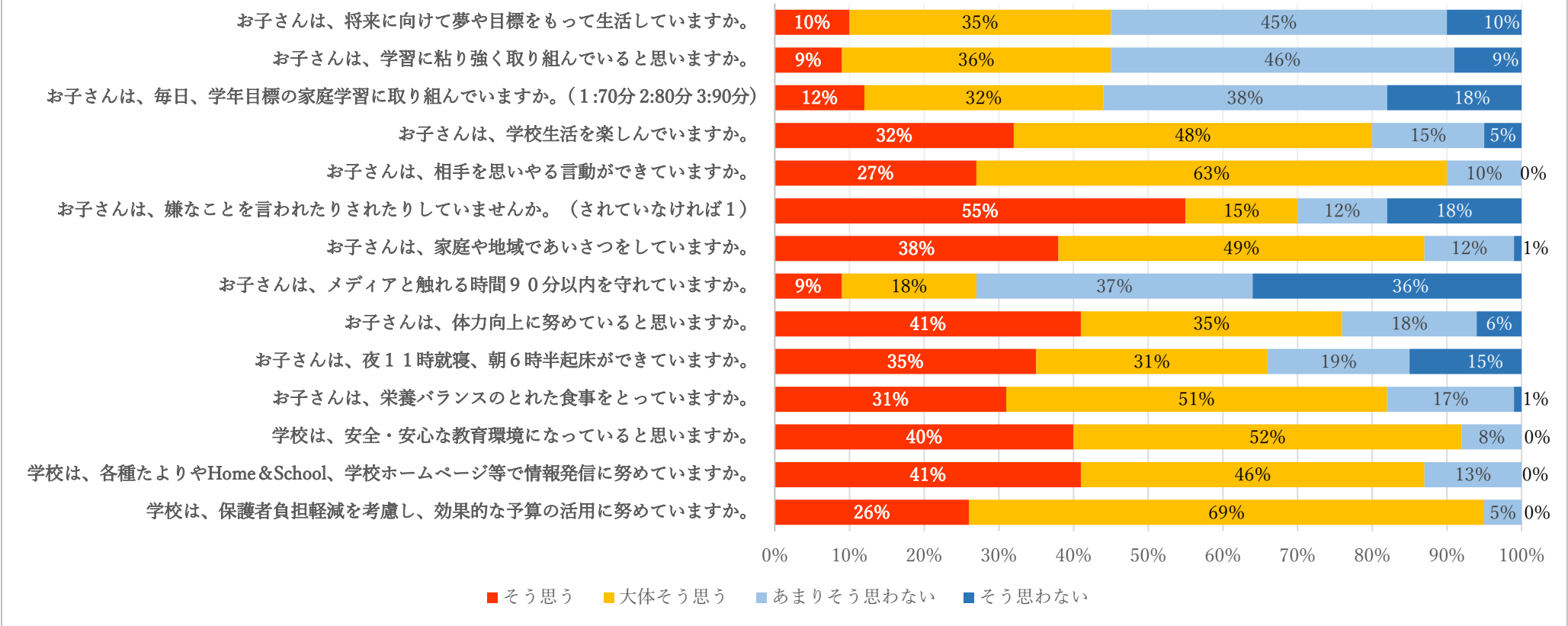


第 1 回学校評価アンケートの集計結果

①生徒アンケート



②保護者アンケート



【保護者アンケート自由記述より（抜粋）】

〈「知」に関して〉

- 勉強と部活の両立ができていない。部活が終わって帰ってくるとそのままご飯を食べて寝てしまう。どうしたら上手くいくか不安です。
- 自主性が必要だと思いますが自学用にプリントが教室にあるとありがたいと思いました。

〈「徳」に関して〉

- かまっているだけと言うが言われている側、ちょっかいを出されている側からしたら正式ないじめになると思います。無視や仲間外れなど肉体的でなく精神的な面でのいじめは何年経ってもなくなりませんね。残念で仕方ありません。

〈その他〉

- バスの予定表を前の月までにいただけると嬉しいです。
- 路線バスだと自宅まで遠いので、行きも帰りもスクールバスを出して欲しい。（保護者負担が大きい。土日の部活も行くのが大変です。）
- いつも子供を見守り、寄り添ってもらいありがとうございます。
- 部活動の顧問の先生方、ご指導ありがとうございます。

多数のご指摘ありがとうございました。全職員で共有し、よりよい方法を検討いたします。今後も職員一人一人の指導力を高め、全職員で安全安心な津南中学校をつくって参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

分析結果と今後の具体的な取組（実践）

「知」に関して

〈分析結果〉

（１）授業での発言

授業中の発言についての＋評価は、生徒評価全体では 67％であるが、学年によっては 80％を超えており、学年による差がある。

（２）家庭学習

学年目標時間の家庭学習に対する＋評価は、生徒・保護者とも半数程度である。「しなのがわタイム」や「生活ノート」を活用の＋評価は、職員評価 100％であるが生徒評価 70％である。

〈今後の具体的な取組（実践）〉

（１）発言の場を組み込んだ授業展開の工夫

- ①発言の場を組み込んだ授業展開を工夫する準備時間が確保されるよう、業務の精選を図る。
- ②学級全体やグループ活動以前の、「隣の人と話してみて」などの小さな会話の機会を増やす。

（２）「しなのがわタイム」や「生活ノート」の効果的な活用

- ①家庭学習について、計画の記入だけでなく、取組結果の振り返り（○△×）まで促す。
- ②「しなのがわタイム」で計画を立てやすいよう、評価テストの範囲表を A 3 版で掲示する。

「徳」に関して

〈分析結果〉

（１）「しなのがわ運動」推進に関しては昨年度から改善点に上がっており、心のアンケートでの振り返りの導入など工夫をしてきたが、その内容や取組に関わる職員が一部（担任など）に限られていることで、数値が低く出ていると思われる。

（２）不登校対応については、様々な外部機関と連携して対応に当たっていることで、数値的にも高い評価につながっている。

〈今後の具体的な取組（実践）〉

（１）生徒が記入した「しなのがわ精神」の振り返りを終学活の放送や諸活動の終了時に紹介・フィードバックすることで、取組の推進と評価のサイクルを充実させる。

（２）今年度、生徒理解の会における不登校対策委員会の実施など不登校に対する対応は大変充実している。様々な機関と連携しながら、今後も不登校対応・支援にあたっていく。

「体」に関して

〈分析結果〉

（１）体力向上について・・・日常の体育の授業や部活動では、生徒が楽しみや達成感を感じることの出来る活動を積極的に取り入れることで、肯定的評価の割合が高くなっていると考えられる。

（２）栄養バランスの取れた食事（朝食）について・・・保護者と生徒で若干の差があるものの、肯定的評価が高い。十分な睡眠時間を確保できる生徒が増加すれば、朝の時間に余裕が生まれ、さらに評価が高まることが期待できる。

（３）メディアの使用時間について・・・生徒、保護者アンケートともに肯定的評価が最も低い項目である。THC 週間の取組もマンネリ化しており、生徒の意識改革や結果に結びつけるのが難しい。評価の仕方についても、現在の「使用時間」のままで良いのか、「使用方法」に視点を变えて、生徒の実態に即した評価方法に転換するのか、検討が必要である。また、今後は、学校発信ではなく、子どもと保護者が主体となった取組に移行していく必要性を感じる。

〈今後の具体的な取組（実践）〉

（１）毎月 1 9 日「育の日」に、給食委員会・保体委員会から食育とメディアコントロールに関する啓発活動を行う。（昼の放送や校門での呼びかけ等）

（２）生徒・保護者を対象としたメディアに関する講演会を検討する。

（３）来年度に向けて、町担当者、各小学校とともに THC での評価の仕方、カードの様式を検討する。（特に、メディアと朝食について）

「管理」に関して

〈分析結果〉

（１）教育環境整備

どの評価も数値は高い。引き続き、各担当者と連携していき生徒、保護者、地域住民の声も含め小さな気づきから改善していくことが必要である。

（２）業務改善

年々職員数が減少し一人あたりの業務の幅が広がっている中であるが、職員一人一人が日々の業務の進め方や周りを意識して取り組んでいることが伺える。特定の職員に過度な負担がいかないよう留意していくことが必要である。

〈今後の具体的な取組（実践）〉

（１）教育環境整備

- ・夏季休業中→コンピュータ室のリニューアル、清掃モップの調整
- ・それ以降→予算要求に向けて全教職員から意見集約

（２）業務改善

- ・日直の見直し
- ・欠席連絡方法
- ・SSS の積極的な活用
- ・各種計画立案時のねらい等の検討